



【愛知】ハヤマ運輸（兼山晋一社長、愛知県飛島村）は3月22日、中部地域において優れたIT（情報技術）経営を実践した、中小企業などの模範的取り組みを表彰する中部IT経営力大賞で、奨励賞を受賞した。同社は運送事業の核となる車両・運行・顧客情報をリアルタイムで取得し、運行管理と経理に活用。特に、冷凍・冷蔵食品をタイムリーに配送する業務の改善で評価を受けた。（梅本誠治）

愛知から関東・関西に向けた冷凍・冷蔵食品の中距離輸送と冷凍・冷蔵倉庫の運営を手掛けている。小口混載に特化した受注・配送システムの活用とペーパーレス化した配車・入出庫管理で、効率化と生産性向上に取り組んだ。

文書を電子化して管理できる富士ゼロックスの「DocuWorks」と、システムギアソフテック（岸上新弥社長、兵庫県宝塚市）の運送事業システム「一番星」を連携させた。管理者がパソコン上で荷物のマッチングや運行指示、請求管理に至るまで効率的に作業できるようシステムを整えたのに加え、荷主からの問い合わせにもすぐ対応できるよう環境を整備した。

社内にプロジェクト推進委員会を置き、効率配車支援、ペーパーレスファクス自動送信、安全・動態運行、労務管理、クラウド型倉庫管理で、それぞれシステムチームを設置。16年3月にシステムを立ち上げた。導入には、システムギアソフテックが実運送と作業の連携のサポートをコーディネートした。「いかに使いやすくカスタマイズしてもらえるかが重要だった」（兼山社長）。

名古屋市で開かれた「IT経営カンファレンス2017 in 名古屋」の表彰式で、選考委員長を務める名古屋学院大学の岸田賢次名誉教授は「運送事業の車両・運行情報をリアルタイムで把握し、毎日の業務に生かすハヤマ運輸の取り組みは、IoT（モノのインターネット）の領域に近い。現在の業務と併せ、更なるITの活用に期待したい」と評価。

受賞を受けて、兼山社長は「IT経営により、紙を出さない社内風土が醸成され、作業効率と共に顧客満足度を上げるためのスピードが高まった」と話す。今後は配車指示をスマートフォン（スマホ）に送るシステムの導入なども視野に入れる。

一方で、「いい会社とは、人が集まる会社だと思っている。委員会活動により、従業員全体にそのような組織をつくっていく意識が生まれた。ITと人材育成を柱に、より多くの人の役に立つ会社を目指したい」と語った。

【写真＝奨励賞を受ける兼山社長（右）】

(11) 2017年(平成29年)4月3日(月曜日)

中部IT経営力大賞

ハヤマ運輸に異例の奨励賞

【愛知】食品輸送をして運行管理に活用。得意とするハヤマ運輸(葉山晋一社長、海部郡飛島村)は3月22日、「中部IT経営力大賞2017」で奨励賞を受賞。製造業や販売業の受賞が多い中で今回、運輸業が受賞するのは異例である。

同社は、運輸業に重要となる車両情報、運行情報、顧客情報などをリアルタイムに取得

して運行管理に活用。特に冷蔵・冷凍食品を毎日タイムリーに配送する業務の効率化を改善するなど、中小企業や運送業者がIT経営に取り組む際の参考となる事例として評価された。

表彰式に出席した葉山社長は、同大賞選考委員長の岸田賢次氏(名古屋学院大学名誉教授)から、奨励賞の

表彰状と労いの言葉を受けた。

葉山社長は「運輸業界の環境背景として、宅配便の問題や観光バス事故に象徴されるような深刻なドライバー不足や拘束時間の長



表彰を受ける葉山社長(右)

さ、また長距離運行には特に命に関わる危険と隣り合わせといったリスクがある」と話し、「そのような諸問題に対して最新IT技術をフルに活用して、作業効率、配車スピードや適正な判断、徹底したムダの排除、安全管理、教育などに積極的に活用していることを認めていただけた。今後とも志を持った経営を推進していくために、ITを積極的に活用していきたい」と抱負を語った。(伊藤行理)

中部IT経営力大賞2017 奨励賞受賞

皆様にとって「また、頼みたい」と思ってもらえる会社を全社員で創っていきます

ハヤマ運輸株式会社



葉山晋一 氏

ハヤマ運輸株式会社 代表取締役社長

運送業、倉庫業を通して全人類が幸せになるために働き、お役に立ち、貢献すること
そして、社員とその家族がまず幸せになること
そのための行動指針として

1. 思いやりを大切に！
2. 落ち着いて、一つずつ丁寧に、全身全霊で！
3. みんなでいい会社をつくっていきましょう！

日々の活動として、8つの委員会が動いています
回覧委員、読書委員、接客・電話委員、美化委員、
朝礼・清掃委員、燃費委員、リフト整備委員、ドライバー品質向上委員
委員会活動を社員が主体的に行動し、いい会社をつくっていきます
何のために働くのか、迷わないように、明確にしていきます
そして、みんなで幸せになっていきます

■IT導入の背景と目的

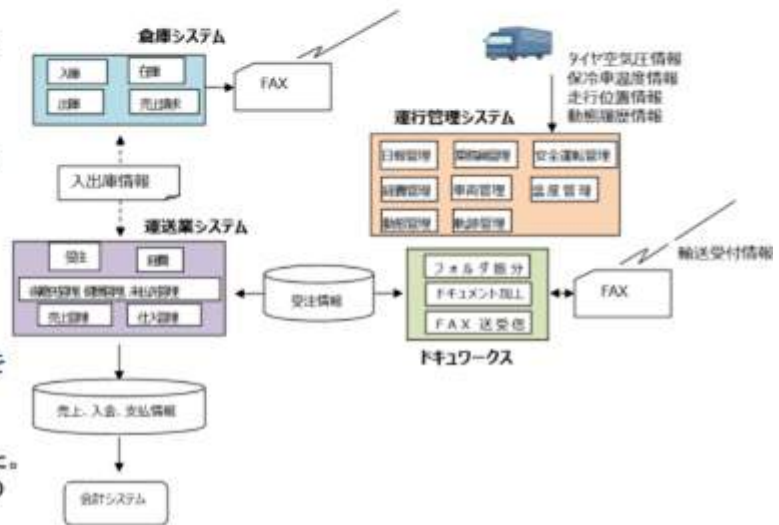
1. 社会環境や生活様式の変化によって求められるサービスの多様化や輸送時間の短縮、鮮度保証といった新たなニーズへの挑戦が必要になり、IT経営への変革が急務となった。
☞サービスの多様化による事業の拡大
・自社配送と自社倉庫を最大限活用して、取扱い商品を拡大し、新規お客様を獲得する。
2. 安全運転や安心輸送、そして拘束時間の短縮は輸送業界の最大のテーマであり、最大の価値でもある。事業を永続させるためには常に配慮する必要があり、そのためには今起きている現場情報を迅速に捉え的確な判断と指示による日々のオペレーションが重要になる。
☞輸送車輛の各種情報をタイムリーに取得し、輸送状況の把握と運転手の安全確保に努め、決められた運行を維持する。納品遅れ 20件/月 → 5件/月
3. 輸送品目多様化による事務作業増加に対する事務処理の簡素化とスピードアップ。
・お客様の多様な要求に対する対応時間の短縮と事務担当の負荷の軽減
・倉庫保管のお客様への入出庫の実績報告の自動化。

■IT化の概要

1. データ分析・情報分析ツールの活用
☞売上情報分析のリアル化
・売上額、地域別エリア・方面別の得意先別売上順位、ドライバー売上3か年比較グラフ等、分析のリアル化、経営判断の迅速化を図る。いろいろな角度の分析を可能にする判断材料を持った。
2. 配車作業の自動化
☞対応時間の短縮化と輸送手配ミスの削減。
・緊急輸送の配車手配、積載可否等の判定を瞬時に行えるようにした。
・常時、集荷エリアあるいは配送エリアごとの数量、重量を別ウインドウに表示し、必要配車台数の判断を迅速に行えるようになった。
3. 車両情報の取得
☞車両走行データのデジタルデータの活用
・輸送車のタイヤ空気圧、庫内温度、位置、動態履歴(勤務時間・拘束時間・安全確認運行評価、ドライブレコーダ等)を随時デジタルデータで集信し車両単位に安全を確保する。

■IT導入の効果

1. 小口配送の配送受付、配送指示処理の時間短縮
 配送指示、配送回答処理の自動化により大幅な時間短縮と事務品質を向上させることができた。
 - 方面分析(地域分析)
 配送コスト等の分析時間の短縮により営業活動の迅速な対応が可能になった。
 - 輸送車両の車体情報のリアル取得
 車両の走行位置、タイヤの空気圧情報、温度情報をデジタルデータにて集信し、車両の安全確保、輸送食品等の品質維持に効果を発揮している。
2. 事務効率の大幅な向上とツインモニタによるペーパーレスの実現
 経営数値がデータ化したため、曖昧さを排除した経営判断が可能になった。
 また、FAX検索が画面上で簡単に出来るようになり、紙の保管の手間、保管スペースが必要なくなった。
3. FAXの送受信の自動化
 倉庫ごとの入出庫の前日状況を毎朝集計処理を行いFAXにてお客様に送信していたが、集計処理とFAXの自動配信機能を連動させることで、すべて自動化され夜間メール送信による報告が可能になった。そのため、お客様サービスの向上につながった。
4. 港湾エリアに所在しているため、大自然災害の防災対策としてクラウドによるデータ保管、運用を行うようにした。
5. 社内の通知・通達・勉強回覧をワークフローを利用するようにした。
 そのため社員の情報リテラシーの向上につながった。



ITコーディネータから一言

システム開発サポート。代表 ITコーディネータ 土屋 守

昨今の運輸業界を取り巻く状況は、ドライバーの長時間運転やそれら原因による交通事故等で大変厳しい状況にあります。しかし、それでもお客様ニーズの多様化や生活様式の変化により輸送業務の日本経済へ与える影響は大きく活況の状況にあります。

ハヤマ運輸様では社長の強いリーダーシップにて積極的にIT化に取り組み、輸送業務の「安全確保」、お客様の「信頼確保」、社員への「報い」に邁進しています。社長の情熱が感じられ、素晴らしいと思います。

会社概要

所在地: 〒490-1436 愛知県海部郡飛島村竹之郷4-139

社名	: ハヤマ運輸株式会社	URL	: http://www.hayamatransport.co.jp
代表者名	: 葉山 晋一	運輸部 TEL	: 0567-55-1451
設立	: 1971年11月12日	FAX	: 0567-55-0381
資本金	: 1,000万円	冷蔵部 TEL	: 0567-55-1601
売上高	: 8億円(2015年度)	FAX	: 0567-55-0401
従業員数	: 46名(2015年度)		
事業内容	: 一般区域貨物自動車運送事業 自動車運送取扱事業 倉庫業(保税貨物取扱い) 食品品の売買 水産食品品・冷凍食品品・畜産食品品 生鮮食品品の加工販売 惣菜の製造、加工販売 上記各号に附帯する一切の業務		

「中部 I T 経営力大賞受賞企業紹介」

ハヤマ運輸株式会社様

中部 IT 経営力大賞 2017 において奨励賞を受賞したハヤマ運輸株式会社（兼山晋一社長、愛知県飛島村）は、冷凍・冷蔵食品を受取から関東・関西間の輸送と冷凍・冷蔵倉庫の運営をおこなっている。小口混載に特化した配送業務と冷蔵・冷凍食品保管業務をペーパーレス化した業務プロセスを実現し、効率化、顧客満足度の向上につながるスピード化を実現している。

図1は同社のシステム構成と業務プロセスを示している。運送業務向け専用パッケージの運送システムと受注 FAX のペーパーレスを実現する文書管理システムとクラウドサービスの倉庫管理システムで構成されている。

同社の業務プロセスは、まず①荷主からの受注が FAX(90%) と ONLINE(10%) である。FAX は文書管理システムに取り込みペーパーレスで処理される。取り込まれた FAX は文書管理システムでフォルダ分けされる。担当者は2つのディスプレイを使う。一方の文書管理システムの画面を見ながら、もう一方の運送システムへ②受注入力を行う。一見ローテクな作業のようだが、1日 10,000 ケース以上の小口混載配送を手掛け、34 台の自社トラックとさらに協力会社への委託車両を合わせ、全体で毎日、数百箇所の倉庫への配送受注の処理を行う上で、この文書管理システムの効果は大きい。FAX 番号により受注先別にフォルダ仕訳され、サムネイル表示や電子印鑑、受信リスト、トレイ操作など従来の紙の作業の感覚がそのまま画面上で実現され、それに加えて、一括送信、過去 FAX 検索機能など作業の効率化につながるきめ細かな機能が工夫されている。

運送システムに取り込まれた受注情報はトラックごとの③配送計画、④配車（ドライバー配置）がシステム支援で行われる。自車だけでは能力を超える配送量の場合、協力会社への依頼車両の⑤仕入（倉庫配送）も行う。トラックの出発時に⑥配送指示をドライバーにおこない⑦運行開始する。荷主からの変更依頼はトラック出発前でも、さらには出発後にも入る。これに柔軟に対応するため、リアルタイムでトラックの動態管理を GPS 機能を使ってリアルタイムに行い、出発後の⑧積荷変更、⑨経路変更にも対応しており、配送遅延率の削減により、顧客満足度の向上に寄与しているという。

売上データはリアルタイムで分析が可能となっている。方面別、得意先別に ABC 分析がグラフで視覚的に示され、各営業担当者の迅速な対応につながっている。

倉庫への⑩入庫、⑪出庫はリアルタイムで数量が入力され正確で迅速な在庫把握を実現している。

荷主からの厳しいコスト削減要求と過酷な労働条件による人手不足と厳しい経営環境を強いられている物流業界だが、同社は小口混載の冷凍・冷蔵食品に特化し、固定費比率の大きい車両運行コストにあって、高い運送効率と高付加価値化による

利益率の確保というビジネスモデルをとっている。それに加えて IT の活用による業務効率向上と顧客満足度向上につながるスピードアップと配送遅れやミス削減などの業務品質向上を実現し安定した経営を実現している。同社のシステム構成、機能要件は兼山社長自らがシステムベンダーと打ち合わせながらカスタマイズしたものであり、多くの機能がシステムベンダーの製品の標準機能に採用されているという。

さらに同社は従業員満足への活動も積極的である。事務所のレイアウトも独特で、お互いが向き合う形で机を配置し、コミュニケーションの円滑化を図っている（写真 1）。さらに「社員みんなが幸せになる為に」、「1. 思いやりを大切にする」、「2. 落ちついて一つずつ丁寧に全身全霊で」、「みんなでいい会社をつくっていきましょう!!!」というスローガンのもと、「回覧」、「読書」、「接客、電話」、「美化」、「燃費」、「朝礼、清掃」、「リフト整備」、「ドライバー品質向上」の各委員を任命して自発的な活動を展開している。その結果、ドライバー不足の昨今ではあるが、従業員紹介で採用もできているという。従業員にとっても働きがいのある会社なのだと思わせる。

（取材 ITC 中部 吉田 信人）



写真 1. 事務所風景

図 1. システム構成 & 業務プロセス

